

# ◆5年生野外活動◆



平成28年8月2日(火)~3日(水)



5年生が、岡山県の吉備高原にある国立吉備青少年自然の家で1泊2日の野外活動を行いました。「自分の役割をはたし、みんなで団結してきずなを深める」「色々なことにみんなで挑戦し、最後まであきらめない」をめあてに、クライミングウォール、野外炊事、ネイチャーパウチ、キャンプファイヤー、カッター活動に取り組みました。クライミングウォールでは、友だちと助け合う姿を、施設の方にほめていただきました。野外炊事では、それぞれが自分の役割をしっかりと果たすことで、協力しておいしいカレーをつくることができました。カッター活動では、協力して權をこぎ、広い湖をぐるっとまわりました。長い距離でしたのでたいへんでしたがあきらめず、最後までやりきることができました。この活動を通して、また一段と成長した5年生でした。



# ◆長期休業中にお子様をお預かりしています“ぎんがっ子クラブ”◆

平成28年8月5日(金)

ぎんがの郷小学校では、夏休みや冬休みなど長期休業中に、朝7時30分から夕方6時30分までお子様をお預かりする「ぎんがっ子クラブ」を開設しています。子どもたちは、宿題や自主学習をしたり、読書、音楽活動や琴などの講座、製作活動などをしたりして、充実した1日を過ごします。クラブのある1日をご紹介します。朝、登校した子どもたちは、朝の会で健康観察を行い、その後今日の予定を聞きます。そして、午前中は、宿題や自主学習、その後、読書などの時間があります。



お弁当を食べた後、昼休憩をとり、午後からは製作活動です。今日の製作活動は来年の5月のカレンダー作りです。「5月といえばなにかなあ・・・こいのぼりだ！」など、思い思いの絵を描いて作品を完成させていました。

この後は、琴の体験講座です。毎日「つぎは、どんなことをするのかなあ」とわくわくしているようすの子どもたち。充実した楽しい1日を過ごしています。

蝉

藤井 昭宏

夏休みが終わり、蝉の声も少なくなっています。

よく「蝉の寿命は七日間」と言われていますが、人に飼育されることで衰弱してしまうからで、野生で生きる蝉の成虫は一ヶ月生きるといふ説もあるそうです。夏の間、道端にじいっと佇む光景を目にします。

今日、蝉は夏の象徴となっています。今日、昔の人は蝉を無常の象徴として命の儚さを見出していました。幼虫として長年地中にいたにもかかわらず、成虫として地上に出ればひと夏の間に果てる姿が無常観を連想させたのでしょうか。

たしかに夏の日に絶えず響く蝉の合唱が晩夏になって聞こえないことに気が付くと少し寂しくなってしまう。夕方頃に聞こえるヒグラシの鳴き声に、無性に切なさを感じる人も多いのではないのでしょうか。

また古代中国では蝉が脱皮を行い飛び立つ姿から復活の象徴とし、死者儀礼として再生や肉体の腐敗防止、あの世での生活に不自由がないようにと蝉を象った玉「吟蝉(かみせん)」を副葬品として携える習慣がありました。

蝉の声の終わりとともに、夏の終わり、そして秋の始まりを感じます。季節の変わり目、この夏の思い出を振り返ってみてはいかがでしょう。

ぎんがの郷タイムス第5号は10月中旬にお届けする予定です。